

# いばらき再発見 街道の巻

文化の香り高い茨木市は“有形無形の文化財の宝庫”ではないだろうか考えた「まなびどり」編集ボランティアは、祭事・街並み（民家）・伝承芸能など「知る人ぞ知る茨木の文化」を発掘し、紹介することにしました。日頃気づかない所に嬉しい発見があるかもしれませんよ。



A 櫓の本陣

## 西国街道 (①~①')

古代から西国と京都を結ぶ重要な道で、茨木市内を通る部分は山崎通とも呼ばれ、豊川から高田町まで約5.5km、国道171号とほぼ並行して走っている。西国から東に行くとき大阪経由の本街道よりも距離が短いので参勤交代にもよく利用され、その途中に今も郡山宿本陣（櫓の本陣）が残っている。



B 大塚供養の道標



C 西国 亀岡街道交差点道標

## 亀岡街道 (②~②')

大阪の高麗橋を起点に、茨木市上穂積、郡、福井などを抜けて京都府亀岡市西別院町へ至る。市内の距離は延長8km余りの道である。明治25年以前、福井あたりから現在の清原街道を通して亀岡へ抜けていたが、険しい坂道が多いため、多額の工事費を使って延長4km 幅3.5mほどの迂回路を作り、これを亀岡街道と呼ぶようになった。現在は北摂のローカル幹線道路として大いに利用されている。

## 茨木街道 (③~③')

道祖本を起点とし、郡付近で亀岡街道と合流するが上穂積で分かれ、春日商店街から市の中心部に入る。その後、中津町、寺田町から安威川の先鋒橋を渡り、鮎川から高槻方面へ抜けていく。この街道は市の中心部を通るので、生活密着型の重要な街道で、今でも高槻付近の中央公園のわきにひととき大きな道標（右 茨木停車場、左 大阪）が目をはく。



D 高槻附近の道標

## 茨木街道支線 (④~④')

本町付近で高槻街道と分かれ、田中町、耳原、安威を通り、桑原付近で妙見街道と合流する。特に、田中町にあるレンガ造りのJR東海道線のガードは明治初期にできたものである。また、安威付近では、阿為神社へぬける道に旧家の町並みを多く残している。



E 安威町並み

## 高槻街道 (⑤~⑤')

宇野辺一丁目から天王、奈良、新中条を抜け、人々で賑わう元町、本町の商店街を通り、橋の内、総持寺から高槻市富田へ向かう道である。茨木市南西部から北東へ向かって市内を斜めに横切る街道で、全長は11.8kmに及んでいる。



F 寺町橋跡



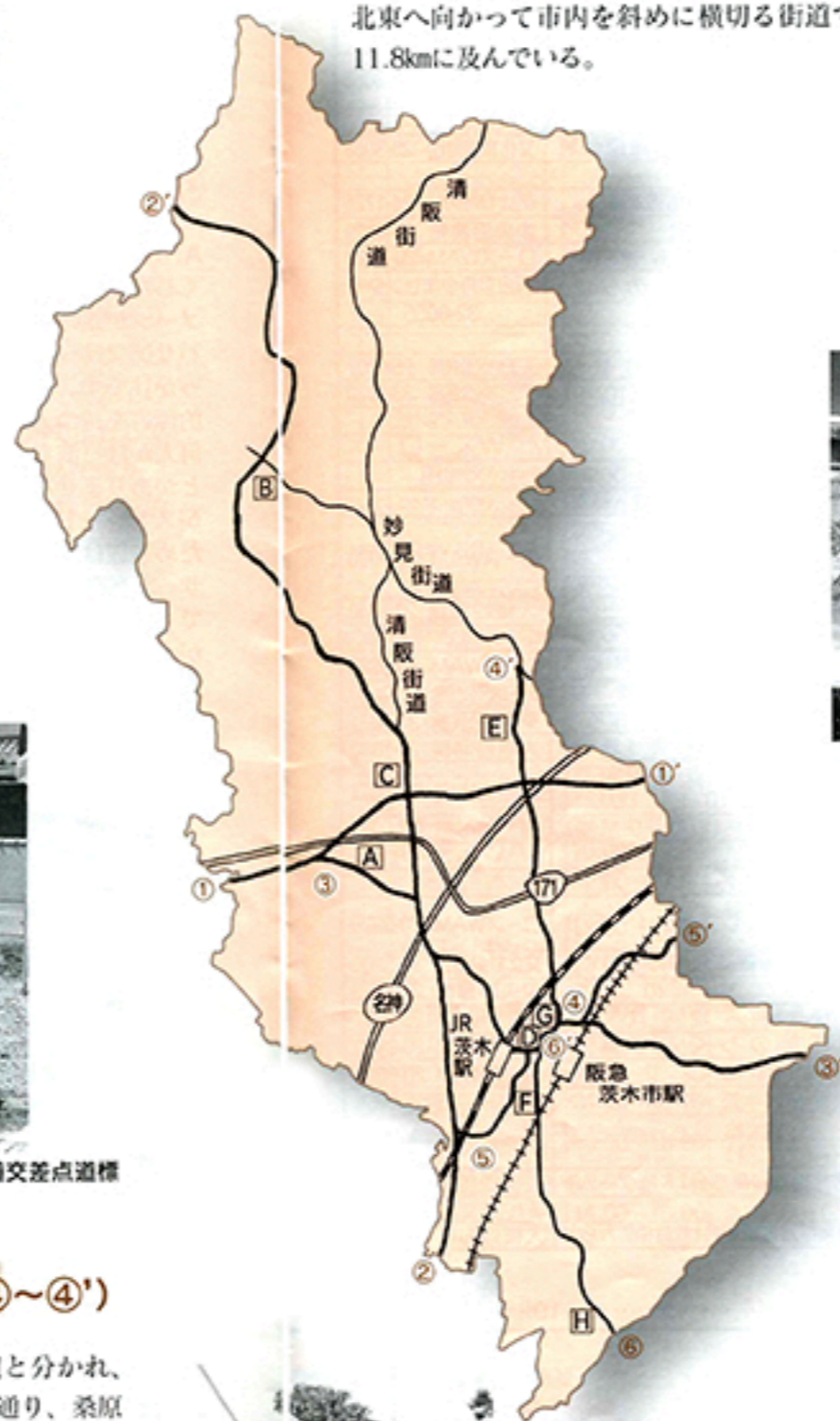
G 本町の道標

## 枝切街道 (⑥~⑥')

淀川と内陸部をつなぐ道で、摂津市の鳥飼下を起点として、鳥、玉櫛を通して茨木市の中心に通じて高槻街道に合流する。当時は荷車がようやく通れるほどの細い道であったが、現在は桜通りの東側に並行している府道茨木~八尾線である。



H 鳥二丁目の道標



### 《街道歩き雑感》

茨木市内を走る街道は18にも及びますが、ここでは、主要幹線と思われる6街道を歩いてみました。そのとき思ったこと感じたことを...

★地図と参考文献とで少しの予備知識を持って出かけたものの、車の洪水に出合ったり、小さいはずの橋が大きなものに取り替えられていたりして「百聞は一見に如かず」を実感した。

★100年も前のままで立っている道標、工事や地震によって元の姿をとどめることができないで新しく建てられた道標、目に付きやすい所に立っているものそうでないものなど、日頃は気にも留めなかった路傍に立つ道標を次々と夢中で探しては文字判読に没頭した。

★交通量の多い大通りから、古い町の中に入ると、安堵感で家々の庭先や道路沿いの花々に恩められ、嬉しかった。

### 参考文献

- ①わがまち茨木 街道編 (平成4年3月)
- ②わがまち茨木 道標編 (増補版) (昭和61年1月)